

# 1年3組 道徳科学習指導案

授業者 片桐 優美

授業① 1年3組教室

1 主題名 よいことと わるいこと 内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任

2 教材名と出典 「うんどうぐつ」(新・みんなの道徳1)

## 3 ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領の内容項目A「主として自分自身に関すること」の〔善悪の判断、自律、自由と責任〕、第1学年及び第2学年「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」をねらいとしている。

本指導内容は、物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動することに関するものである。低学年の段階においては、何事にも興味、関心を示し、意欲的に行動することが多い反面、まだ集団生活に十分に慣れていないため、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。そのために、悪いことと知りつつも周囲に流されてしまったり、自分の弱さに負けてしまったりすることもある。悪いと分かっているにもかかわらず、誘惑に負けてしまうという弱さや、様々なことに興味をもつ気持ちも踏まえた上で、よいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を育てたい。

## 4 道徳科で重点的に育成を図る資質・能力とその手立て

向上心	学んだことを生活に生かし、これからの生き方をよりよくしようとする。 ①自分事として振り返る時間を設定する。 ②終末場面で、導入に使用した写真やアンケートに立ち返らせる。
聞く力	道徳的価値について再構築するために、友達の多様な考えを共感的に聞くことができる。 ①ペアやグループでの話し合いを取り入れ、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。 ②心情円盤などを使って、考えを視覚化させ、自分の考えと比べながら聞けるようにする。
課題を発見する力	資料を読み、どんな問題があるかを見つけたり、何について考えたいかを感じ取ったりすることができる。 ①感想やどんなことを考えたいかを問う。 ②子どもの実態が分かるような写真や事前アンケートを示すような導入にする。

## 5 指導にあたって

### (1) 教材観

本教材は、しげたさんがはやのさんのくつを隠すのを見た「ぼく」が、しげたさんに注意しようかどうか迷っている気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。いつも威張っているしげたさんの圧力に、負けまいとする「ぼく」の様子が描かれている。「ぼく」がしげたさんの前に立つ場面は、一見「ぼく」がよいと思うことを進んで行っているように見えるが、「くつ、出してあげなよ。」と思っただけで、言うことはできない「ぼく」の弱さも描写されている。また、その場面で教材文は終わ

っており、その後の展開について子どもが考えることができるつくりとなっている。「ぼく」の心情について考えさせることで、よいと思ったことを進んで行うことの良い感じることができる教材である。

## (2) 児童観

子どもはこれまでに、「はりきりいちねんせい」や「だれも見えていない」という教材において、〔善悪の判断、自律、自由と責任〕について学習をしてきた。善悪の判断はできるようになっているが、判断を基に行動に移すことはまだ十分に身に付いているとは言い難い。

向上心について、いつも半数の子どもがこれからのことについてふりかえりを書いている。自己を見つめる時間をしっかりと設定することで、全員がこれからのことについて考えられるようにしていく必要がある。

聞く力について、友達の話を聞くことはできているが、自分の考えと比べたり、自分の考えを見直したりしている姿はまだ見られていない。授業の中で、友達の考えも受け入れ、自分の道徳的価値について考え直し、再構築する力はまだ十分ではない。

課題を発見する力について、道徳科の授業では毎回、教材文を読む前に、あらかじめ感想を求めることを伝えておき、教材文を読んだ後に自分が思ったことを発表させている。導入で道徳的価値の方向付けをしているため、子どもからは感想だけでなく、本時でどんなことを考えたいかという意見も出てきている。そのため、「課題を発見する力」については力がついてきていると考える。

## (3) 指導観

質問事項	回答
①もし友達がいけないことをしていたらどうしますか。	注意する…26人 先生に伝える…3人 もう一緒に遊ばないようにする…1人
②友達がいけないことをしているのを見たことはありますか。	ある…17人 ない…13人
③見たときはどうしましたか。	注意した…11人 先生に伝えた…2人 見ていただけ…4人

上記のようなアンケートを事前に行った。アンケートの結果から、ほとんどの子どもは友達が正しくないことをしていたら注意したいと思っているが、実際に行動できなかつた子どももいたことがわかった。この結果を導入で発表し、正しいとわかっていても行動に移すことは難しいという学級の実態を共有したい。それから、行動に移すためにはどのようなことを大切にしたらよいかという課題意識をもたせ、本時の内容項目の方向付けをする。(課②)

展開前段では、教材文を読む前に、あらかじめ感想を求めることを伝えておき、教材文を読んだ後に自分が思ったことを発表させる。感想をもとに、主人公の「ぼく」の気持ちの視点に沿って考えていく。

「ぼく」の葛藤する気持ちに寄り添うことで、善悪の判断はできていても、正しい行動に移すときには勇気がいることに気付かせたい。

また、しげたさんがくつつを隠そうとしているところを「ぼく」が見たところでこの教材文は終わっている。そのときの「ぼく」の気持ちについてタブレットの「心の数直線」(熊本市教育委員会作成)を使用して微妙な心の葛藤を視覚化する。(聞②) それを用いながらペアで自分の考えを伝えたり、全体で共有

したりしていくことで、「ぼく」の気持ちの変化に気付くことができるだろう。そのことが、善悪の判断を行いそれに伴って行動することについて多面的・多角的に考えることに繋がると考える。

タイムマネジメントをすることで、終末において自己を見つめる時間を設定する。(向①)じっくりと自己を見つめることで、よく考えて正しい行動をすることが、自分にとっても相手にとっても気持ちのよい生活につながることに気付き、正しいと思ったことを進んで行おうとする姿が見られるようにしたい。

## 6 本時の学習

### (1) 本時のねらい

悪いことと分かっていると言えない主人公の気持ちを考えることを通して、よく考えて正しい行動をすることが、自分にとっても相手にとっても気持ちのよい生活につながることに気付き、正しいと思ったことを進んで行おうとする態度を育てる。

### (2) 学習の展開

時	主な学習活動と子どもの思考の流れ ○教師の発問 ・予想される子どもの思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
5	<b>1. 価値項目について課題意識をもつ</b> ○友達がいけないことをしていたらどうするかな。 アンケートの結果を見てみましょう。 ・何もできなかった人もいるんだね。 ・注意できていてすごいな。 ・注意したいと思っていてもできていないね。	・事前アンケートの結果をしめすことで、子どもが学級の実態を理解できるようにする。
25	<b>2. 教材文を読んで、考える</b> ○自分が思ったことをみんなに伝えてみましょう。 ・しげたさんはいけないことをしている。 ・はやのさんがかわいそう。 ・お話の続きはどうなるのかな。 <正しいことをおしえるためには、なにがたいせつかな> ◎しげたさんの前でどんなことを考えていたのかな。 ・はやのさんのために言わなきゃ。 ・こわいけど正しいことをしよう。 ・がんばる気持ちよりこわい気持ちが強いよ。 ・言えたら自分のためにも相手のためにもなるんだね ○このあと「ぼく」はどうしたかな。 ・勇気を出して注意したよ。 ・先生に伝えに行ったよ。	・自分事として考えやすくするために、子どもの感想や考えたいことから課題へとつなげる。  ★タブレットの「心の数直線」を使用しながら「ぼく」の微妙な心の葛藤を視覚化する。 (聞②) ・ペアで自分の考えを伝えたり、全体で共有したりしながら、自分の考えと比べられるようにする。 ・その後の2人はどうなったのかを考えることでねらいに迫るようにする。
15	<b>3. 自分の生活を振り返る</b> ○正しいことを教えてあげるためには何が大切かな。 勇気を出して正しいことを教えたことはあるかな。 ・友達がいじわるをしていたからとめたよ。 ・廊下を走っていたから勇気を出して声をかけたよ。 ・ダメだと言ったらすっきりしたよ。 ・今までできなかったけどこれからしたいな。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             正しいことを教えるためには、勇気を出して伝えることが大切だよ。自分のため相手のためになるよ。           </div>	◎よく考えて正しい行動をすることが、自分にとっても相手にとっても気持ちのよい生活につながることに気付き、正しいと思ったことを進んで行うことの大切さを考えたり、伝え合ったりしている。  (ノート・発言)

